

画面越し だけど伝わる あなたのやる気 (2022WLBキャッチフレーズ
兵庫県雇用対策三者会議賞作品)

仕事と生活の バランス

vol.59
Winter

公益財団法人兵庫県勤労福祉協会
ひょうご仕事と生活センター



ワーク・ライフ・バランス フェスタ
(ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰)



キーパーソン養成講座



ワーク・ライフ・バランス フェスタ(特別講演)

| CONTENTS |

特集 | ワーク・ライフ・バランス フェスタを開催 先進的な取組を進める13企業・団体を表彰

4・5 | ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰 5 | ワーク・ライフ・バランスキャッチフレーズ受賞作品

6 | 事業報告 7 | 事業報告／県政トピックス 8 | Information



WLB FESTA 2022

ワーク・ライフ・バランス フェスタを開催 先進的な取組を進める13企業・団体を表彰

「ひょうご仕事と生活センター ワーク・ライフ・バランス フェスタ」が11月22日、神戸市の兵庫県公館で行われ、13の企業・団体が「ひょうご仕事と生活のバランス企業」として表彰されました。

兵庫県、連合兵庫、県経営者協会、兵庫労働局が連携し2009年に開設されたひょうご仕事と生活センターは、全国に先駆けて、仕事にやりがいや充実感を感じ責任を果たしながら、一方で個々の私生活も充実させるワーク・ライフ・バランスを浸透させる取組を進めてきました。

フェスタの冒頭あいさつに立った片山孝幸兵庫県副知事は「齋藤知事は自身が子育て世代であることから、率先してワーク・ライフ・バランスに取り組んでいます。トップ自ら取り組む姿勢を見せることが大きな効果を生みます。ポストコロナ社会では、多様性や変化に柔軟に対応できるかどうかポイントであり、誰一人として取り残さないという考えでSDGsを推進する上でも、センターの役割はますます大きくなるでしょう」と述べました。



片山副知事

続いて、「ひょうご仕事と生活のバランス企業」の表彰式が行われ、13の企業・団体に表彰状が手渡されました。ワーク・ライフ・バランス キャッチフレーズの表彰式では、兵庫県雇用対策三者会議賞（グランプリ）に選ばれた「画面越し だけど伝わる あなたのやる気」をはじめ入賞者4人が表彰されました。さらに、自らリーダーとなり働き方改革の推進役を担うキーパーソンの養成講座に参加した15企業・団体21人の修了式も行われました。



辻センター長

この後、株式会社ライブニッツ代表の山口周氏が、「ノーノーマル時代のワーク・ライフ・バランスとは」をテーマに特別講演。最後に、ひょうご仕事と生活センターの辻芳治センター長が、「表彰企業の皆さまにはこれを機にさらに継続的な取組を推進し、県内企業の模範として飛躍していただきたいと思います。当センターは働きがいや働きやすさを実感できる職場づくり、そして企業の持続的な成長のための環境整備のサポート役としての役割を積極的に果たしていきます」と述べ、閉会しました。

ノーマル時代の ワーク・ライフ・バランスとは

株式会社ライブニッツ代表 山口 周氏

Work-life balance in the No normal era

ワーク・ライフ・バランスはフェーズ2へ

この10年で、息の長い成果を上げる組織をつくるためにはワーク・ライフ・バランスが重要だという理解が広まりました。私はワーク・ライフ・バランスの完成形に至るフェーズ1はすでに完了し、フェーズ2に移ったと考えています。ここ10年は、残業時間を減らし、有給休暇や育休取得日数を増やすといった数字（量）で測れるものが達成度の指標になっていました。ただ、量を達成すればワーク・ライフ・バランスが実現できるのかといえばそうではなく、ワークには質の問題があります。次のフェーズはワークの質に踏み込んでいくことが重要なのです。ワークの量については制度を変えることで実現できましたが、質を上げるには組織におけるリーダーシップ、思考、行動の様式を変えないといけません。

ビジョンを語るリーダーシップへ

まず、「正しく、速くを目指す」から「唯一無二を目指す」へ、です。2007年に国内でほとんどのシェアを占めていた携帯電話産業は15年後に消滅しました。なぜ負けたか。顧客が望んでいるものを「正しく」追求し、それに基づいて「速く」作った結果、負けたのです。一方で、顧客の声よりも、どんなものを作たらわくわくするだろうという考えを突き詰めた会社がシェアを握りました。正解はコモディティになり、「正しく」「速く」は人工知能に任せる時代になりました。今求められているのは正解ではなく、問題で戦うことです。問題とはありたい姿と現実のギャップであり、価値のある問題を独自に見つけ解決することでやりがい生まれ、ワーキングウェルビーイングが実現します。

リーダーが組織を動かすやり方には、上から指示する「指示命令型」、長期的な方向を示す「ビジョン型」、情緒的な信頼関係を築く「関係重視型」、参加を促す「民主型」、腕まくりして模範を示す「率先型」、育てる「育成型」

の6つがあります。ワーキングウェルビーイングを実現するために重要なのが、「ビジョン型」「関係重視型」「民主型」「育成型」の4つ。しかし、日本の大手企業の管理職の半数以上が、まず「率先型」「指示命令型」の方法を使っていたことが分かりました。

特に、ビジョンを語るリーダーシップへと改めるには共感が大事です。共感を得るには、何をするのか（WHAT）、なぜするのか（WHY）、どうするのか（HOW）を語る必要があります。自己効力感も大切です。「生き心地の良い町」の著者、岡檀さんは、日本で一番自殺率の低い徳島県海部町の町民は「自分たちの意見が行政に反映されて地区の改革に生かされる」と考えていることが分かりました。つまり、自分が何かの変革に携われていると感じているということです。それは自治体でも組織でも同じことです。

若手が声を上げやすい風土づくりを

時価総額1,000億円を超えるスタートアップ企業の創業経営者の創業時の年齢は28～32歳がほとんどです。また、パラダイムシフトの研究を行ったトーマス・クーンは、「パラダイムシフトの転換を成し遂げる人間のほとんどは年齢が非常に若い、その分野に入って日が浅いかのどちらかである」と言っています。組織の中で若手が声を上げやすい風土をつくっておくことは大切です。

「綿密に計画する」より「とりあえずやってみる」ことも大事です。GoogleやFacebookの創業者は遊びの延長で事業を始め、ファンをつくって、それから会社を興しました。Amazonは1999年に上場して以来約70の新規事業を手掛け、その3分の1はすぐにやめています。計画段階で時間をかけすぎると疲弊しますし、やってみてうまくいかないのにずるずる続けるとワーキングウェルビーイングは阻害されます。そして、失敗した人を評価することも重要です。

組織の思考、行動様式を見直し、ワーキングウェルビーイングを実現してください。

ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰

受賞団体と主な取組内容（五十音順）

〔通信販売〕

Earththink株式会社

（三田市）

リモートワークを積極的に活用し、顧客や社員間の情報共有や業務効率化を促進

- ・ RPA^{※1}の導入による業務効率化と残業事前申告制を採用し「残業ゼロ」を目指す
- ・ 部署を超えた社内推進チームを設置しボトムアップによる職場改善活動を実施

〔医療、福祉〕

有限会社ウェルビー

（加西市）

ITツールの活用や介護ロボットの導入により職員の負担を大幅に軽減

- ・ タブレット端末導入により手書き業務を減らし業務効率化で残業はほぼゼロに
- ・ 見守り介護ロボットの導入により夜勤スタッフの負担を軽減

〔情報通信業〕

キンキテレコム株式会社

（姫路市）

従業員一人一人の働き方の悩みに対応し、十人十色の働き方が実現できる職場づくり

- ・ ライフステージに合わせて勤務形態を変更することができ多様な働き方が可能な環境を整備
- ・ 対面での対話を重視し、店舗に出向いて社員の思いを聞くなどコミュニケーションを向上

〔製造業〕

神戸化成株式会社

（神戸市）

個人の能力を可視化したスキルマップを作成し仕事の分担や研修を実施

- ・ コミュニケーションの活発化とスキル向上を目指し経営計画書を作成する研修などを実施
- ・ ITツールの活用による勤怠管理により残業時間を削減

〔医療、福祉〕

社会福祉法人しらさぎ福祉会

（姫路市）

仕事と生活にメリハリをつけて働きやすい職場作り

- ・ ICT化と介護ロボット導入によって情報共有をすすめ業務を効率化
- ・ 問題発生時に共に話し合い改善策を検討することでスキルとやる気を向上

〔製造業〕

住友ゴム工業株式会社

（神戸市）

女性活躍と両立支援を切り口にD&I（ダイバーシティ&インクルージョン）を推進

- ・ 制度や規定に関する社員の疑問に答えるチャットボット（AI）を導入
- ・ 女性活躍推進のためのメンター制度を導入

〔製造業〕

株式会社大栄螺旋工業

（西脇市）

全員が参加しやすい改善活動を通じ、組織風土を良くして働きやすい職場づくり

- ・ 形骸化された改善活動を見直し小さなことも拾い上げる新改善提案活動を実施
- ・ 社長と社員の対話を通して意見を言いやすい風土を醸成

〔建設業〕

株式会社成田

（洲本市）

みんなで経営計画書をつくることで価値観と会社の方向性を共有

- ・ 業務のボトルネックを探る研修等により残業を削減
- ・ 寡黙な人にもコミュニケーションを促すサイコロ朝礼の実施

※1 RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）：これまで人間のみが対応可能と想定されていた作業を人間に代わって実施できるルールエンジンやAI、機械学習等を含む認知技術を活用して代行・代替する取組

※2 ABW（アクティビティ・ベースド・ワーキング）：従業員が業務内容に合わせて好きな場所で働けるというワークスタイル

〔製造業〕

株式会社ハヤブサ

(三木市)

WLBの実現を中期経営計画に掲げ、個人の
問題ではなく経営課題として取り組む

- ・ ABW^(※2)の考え方を導入し健康で効率よく仕事ができる
環境を整備
- ・ フリーアドレスやペーパーレス化、RPA^(※1)の導入などで業
務時間の削減を実現

〔金融業〕

姫路信用金庫

(姫路市)

金融業では珍しいスキルマップを導入し、能
力の見える化とスキルの均一化に取り組む

- ・ 「リフレッシュ休暇」として好きな時期に5営業日連続での
取得を促し、全職員が取得
- ・ ユニークなネーミングの階層別研修の実施

〔製造業〕

兵庫ベンダ工業株式会社

(姫路市)

労働集約型製造業から知識集約型製造業へ
の移行を目指す働きやすさへの取組

- ・ クラウドシステムの導入による情報共有促進と緊急時対
応で活用
- ・ 体力的に負担が大きくなる高齢者が安心して働き続けら
れるよう積極的に新規事業を展開

〔医療、福祉〕

一般社団法人フルーリル

(西宮市)

共助ができる雰囲気づくりと幸福感を持ち
生活、仕事ができる環境づくり

- ・ 保育の場（職場）で子どもと向き合う時間を優先すること
で働きがいを向上
- ・ ライフステージに応じた柔軟な勤務の仕組みや社宅の提供

〔医療、福祉〕

医療法人社団むらまつ歯科

(西宮市)

「世の中では当たり前になりつつあること」を
歯科業界で先導的に実施

- ・ みんなで勉強する時間の確保とフラットな関係で話ができ
る環境によりチーム医療を強化
- ・ 最新医療機器の導入、予約・会計のIT化推進により業務
量を大幅に削減



2022年度 ワーク・ライフ・バランスキャッチフレーズ受賞作品

2,434の応募作品の中から選ばれた受賞作品を紹介します。

募集テーマ：アフターコロナ時代の新しいワークスタイルを促進するキャッチフレーズ

受賞名	作者名（敬称略）	キャッチフレーズ
兵庫県雇用対策 三者会議賞 〈グランプリ〉	匿名希望（西宮市）	画面越し だけど伝わる あなたのやる気 作者コメント：リモートワークであっても、場所が変わるだけでやることは同じ。 就業場所がどこであっても一生懸命お仕事することには変わりません。
兵庫労働局長賞・ 働き方改革賞 〈準グランプリ〉	まつだ ゆずは 松田 柚花（神戸市） 神戸学院大学附属高校	いつ休む 声をかけあい 取りやすく 作者コメント：皆が休みについて話をすれば、休みを取りやすいと思います。
ひょうご仕事と 生活センター長賞 〈佳作〉	あかい みゆう 赤井 心優（尼崎市） 神戸学院大学附属高校	言わせない「仕事と私どっちが大事？」 作者コメント：恋人や家族など、大切な人にこのせりふを言われないように働き方改革をしたらいいと 思います。家庭内だけでなく会社においても、男女問わず意識してほしい内容です。
	なかむら ちほ 中村 千歩（豊岡市） （株）中村建設ナカフサ 【WLB宣言企業】	ワーケーション どこでもオフィスが兵庫の魅力 作者コメント：観光地の多い兵庫だからこそ、コロナで打撃を受けた観光産業を助ける意味でも、 積極的にワーケーションを広めていくべきだと思います。

キーパーソン養成講座を開催しました



ワーク・ライフ・バランス（WLB）を組織全体で進めていくには、さまざまなポジションの社員を巻き込み、一緒に推進していくことが大切です。そのリーダー（旗振り役）となる「キーパーソン」を養成する講座を6月から10月にかけて4回の連続講座として開催しました。

講座ではWLBビジョンや、自組織の課題や解決策などについて考え、最終日にはそれぞれの企業・団体のWLB推進についてのアクションプラン（行動計画）を参加者全員が発表し、コンサルタントや参加者が発表内容についてアドバイス等を行いました。本講座は2012年から毎年開催しており、11回目となる今回は15企業・団体の21人が全課程を修了。11月22日のワーク・ライフ・バランスフェスタにて修了式が行われました。講座終了後のアンケートでは、「このプログラムに参加してご自身や所属組織で、何か変わりそうな予感がありますか？」という問い

に対し、参加者全員が「変化がありそう」と回答しました。

それぞれのアクションプランの実行で、自組織でのさらなるWLBの推進を期待します。



認定・表彰企業学びの会を開催しました



ひょうご仕事と生活センターでは、ひょうご仕事と生活の調和推進認定・表彰企業を対象に、さらにワーク・ライフ・バランス（WLB）実現に向けて具体的な課題を解決するために「学びの会」を開催しています。10月17日にはADU株式会社の宇田名保美氏を講師に招いて「WLB×採用 取組みの成果をSNSでどう発信する？」をテーマにセミナーを開催しました。

当日は認定・表彰企業から20人が参加し、初めにSNSの基本的な機能や運用方法について学んだ後、早速自社紹介1分間動画の収録に挑戦しました。その後グループディスカッションを通じて意見交換。内容を改善し、再度収録を行いました。最後に優秀な動画を選び、参加者でシェアし、閉会しました。参加者アンケートでは「自社の強みやSNSで活用できるキーワードを知れた」「他のメンバーの意見が大変参考になった」といった声があり、参加

した方全員が「参加して良かった」「新たに気付いたことがあった」、95%が「実務への活用について期待できる」と回答し、今後のSNSの活用に大いに参考となったようです。



国際フロンティア産業メッセにブース出展しました

9月1日、2日の2日間、「国際フロンティア産業メッセ2022」が神戸国際展示場で開催されました。

ひょうご仕事と生活センターの出展ブースでは、現場を持つ企業のテレワークシステムとして「スマートグラス」による遠隔技術支援などの体験相談会を開催しました。

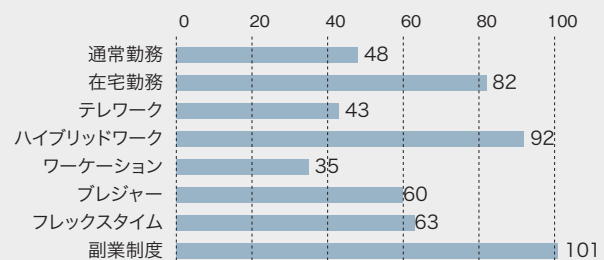
また、来場者に向けて『アフターコロナの働き方で必要だと思うこと』についてアンケートを実施し262人の方に回答を頂きました。一番多かった「副業制度」を選ばれた方の中には、「現在の仕事がコロナの影響を受け、将来が不安なため、副業はスキルアップや次の仕事を探すきっかけになるかもしれない」との声もありました。また、製造現場においては働き方を変えるのは難しいという声もあり、まだまだ柔軟な働き方は難しい面もありますが、今回

体験相談会で紹介した「スマートグラス」の活用などにより、少しでも柔軟な働き方ができる方法が見つかるかもしれません。

高校生や大学生といった若い世代は、「在宅勤務」と「副業制度」を選ぶ方が多かったのが印象的でした。

【アンケート結果】アフターコロナの働き方で必要だと思うこと

回答数262人（複数回答可）



課題を抱える妊産婦支援プロジェクトへのご協力のお願い

県政トピックス
TOPICS

【ふるさと寄附のお願い】

予期せぬ妊娠などで思い悩み、誰にも頼らず、孤立。思うように働けず経済的に苦しい。そうした課題を抱える妊産婦を支援するため、兵庫県として、さらに支援を充実するため、「ふるさと寄附金」を活用した支援プロジェクトを立ち上げました。企業の皆さまと共に、小さな命を守る取組、お母さんが安心して出産でき、子育てできる環境をつくっていききたいと考えておりますので、ふるさと寄附へのご理解ご協力をよろしくお願いします。

寄附を頂いた際には、本県の公共事業入札参加資格の社会貢献評価の点数が別途加算されます（要件あり）。

【公民連携による物資等の支援】

ふるさと寄附と併せて、公民連携による支援にもご協力をお願いしたいと考えております。課題を抱える妊産婦さんが支援施設から自立生活に移る際に、新しい生活を安全・安心に送れるよう、善意でご提供いただける物資等の支援を県・支援施設・企業等が連携して妊産婦に届ける仕組みを構築したいと考えています。こうした社会課題に対して、支援の輪を広げていきたいと考えておりますので、物資等の支援についても、ご理解ご協力をよろしくお願いします。

ご協力いただいた企業さまについては、県ホームページの特設ページに企業名を掲載する予定です。

詳細は「課題を抱える妊産婦支援プロジェクトページ」（県ホームページ）をご覧ください。

詳細はこちらから▶



問い合わせ先／兵庫県福祉部 児童課児童福祉班 TEL078-362-4224 Eメール jidouka@pref.hyogo.lg.jp

2022年度下期

ひょうご仕事と生活の調和推進認定申請企業の募集!

当センターでは、ワーク・ライフ・バランスの取組を進め、一定の成果を収めている企業・団体を厳正に審査し、「認定」しています。認定審査を希望される企業・団体のご応募をお待ちしています。

認定企業になると

- 認定企業としてホームページ等で企業名や取組が広く周知され、イメージアップにつながります。
- ハローワークの求人票や求人広告でPRでき、人材確保の効果が期待できます
- ひょうご仕事と生活センターと連携している金融機関等で優遇金利での融資などの支援を受けられます

(2022年11月末現在)

表彰企業

152企業・団体

認定企業

398企業・団体

宣言企業

3,301企業・団体

兵庫県内企業・事業所

新卒者の
応募が増えた!社内の
雰囲気が良くない、
働きやすい職場に
なった!

認定企業の声



【応募対象】「ひょうご仕事と生活の調和推進企業宣言」に登録されている県内事業者で、「ワーク・ライフ・バランスWEB自己診断システム」の総合評価が概ね星印2つ以上の場合、申請対象とします。

【応募方法】次の書類をセンターまで持参または郵送

- ① ひょうご仕事と生活の調和推進企業認定申請書
- ② 労働関係法令等チェックリスト
- ③ ワーク・ライフ・バランスWEB自己診断システムの診断結果(写し)

※申請書類はセンターのホームページからダウンロードできます

【応募締切】2023年1月20日(金)



センターの主な事業

ワンストップ相談

ワーク・ライフ・バランスに関する相談や質問を受け付けています。
(面談、電話、メールで対応)

コーディネーター、コンサルタントの派遣

コーディネーターやコンサルタントが企業を訪問し、ワーク・ライフ・バランス推進に必要な専門家の派遣など最適なサポートを提案します。

研修・実践支援の実施

相談に応じて、ワーク・ライフ・バランス実現に向けた研修や担当者への実践的なアドバイスを実施します。

テレワークサポートセンター

テレワーク導入などに向けたインフラの構築や運用について、相談に応じます。

中小企業従業員意識調査

従業員の今の職場についての意識をアンケートにより数値化し、優先的に取り組むべき課題などを把握することができます。

企業助成

ワーク・ライフ・バランスの推進を支援するための各種助成金を用意しています。

公益財団法人 兵庫県勤労福祉協会

ひょうご仕事と生活センター

〒650-0011 神戸市中央区下山手通6-3-28 兵庫県中央労働センター1階

TEL 078-381-5277 FAX 078-381-5288 E-mail info@hyogo-wlb.jp

開館 月～金曜 9:00～17:00(祝休日、年末・年始を除く)

阪神事務所

〒660-0881 尼崎市昭和通2-6-68

尼崎市中小企業センタービル6階

TEL 06-6481-1888

姫路事務所

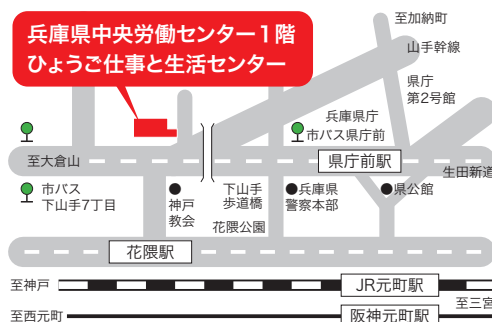
〒670-0947 姫路市北条1-98

兵庫県立姫路労働会館1階

TEL 079-288-2603

公式
Instagram
はじめました

兵庫県中央労働センター1階 ひょうご仕事と生活センター



- 神戸市営地下鉄「県庁前」駅西出口③から西へ徒歩7分
- 神戸高速鉄道「花隈」駅東口から北へ徒歩9分
- JR「元町」駅西口から北西へ徒歩12分
- 阪神電鉄「元町」駅西口から北西へ徒歩14分

(2022年12月発行)

<https://www.hyogo-wlb.jp/>

ひょうご仕事と生活センター

検索